

イン・ザ・メイキング

翻訳・創作の出来るまで

2023
10.20 金
14:30~16:00

読んでわかりやすい翻訳、見て楽しい絵本が世に出るまでに、どんなプロセスがあるのでしょうか？
翻訳・創作の表も裏も知り尽くしたお二人の先生に、「メイキング・オヴ」を語っていただきます。



©Satoshi Kitamura



©Satomi Shimabukuro

柴田 元幸

翻訳家、米文学者、東京大学名誉教授、神戸市外国語大学客員教授。ポール・オースター、レベッカ・ブラウン、スティーヴン・ミルハウザー、スチュアート・ダイベック、スティーヴ・エリックソンなど、現代アメリカ文学を中心に翻訳多数。1992年に『生半可な學者』で講談社エッセイ賞、2005年に『アメリカン・ナルシス』でサントリー学芸賞、2010年に、トマス・

ピンチオン著『メイスン&ディクスン』（新潮社）で日本翻訳文化賞、2017年に、早稲田大学坪内逍遙大賞を受賞。翻訳に、マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』（研究社）、『トム・ソーヤーの冒険』（新潮文庫）、ジョゼフ・コンラッド『ロード・ジム』（河出文庫）、エリック・マコーマック『雲』（東京創元社）、スティーヴン・ミルハウザー『ホーム・ラン』（白水社）など。

翻訳については、村上春樹との共著『本当の翻訳の話をしよう』（新潮文庫）、『翻訳教室』（朝日文庫）等。2022年には既に『シャーロック・ホームズで学ぶ英文法』（アスク出版）、マグナス・ミルズ『鑑識レコード倶楽部』（アルテスパブリッシング）、シルヴィア・プラス『メアリ・ヴェントゥーラと第九王国』（集英社）、『英文精読教室』5、6巻（研究社）、ポール・オースター『写室の旅／闇の中の男』（新潮文庫）を出版。文芸誌『MONKEY』および英語文芸誌『MONKEY』の責任編集。

きたむら さとし

絵本作家、翻訳者、画家、作家、神戸市外国語大学客員教授。フリーランスのイラストレーターとして東京で広告、雑誌関係の仕事をする。1979年に渡英。1981年に初の絵本 *Angry Arthur* (Hiawyn Oram 文) の絵を担当、この作品は1983年度の新人絵本イラストレーターに贈られるマザーグース賞授賞。1983年より2009年まで英国在住。その間、多数の絵本、詩集のイラストまたミュージアムデザインにかかわる。日本ではアメリカ文学者、翻訳家の柴田元幸氏のエッセイや翻訳のイラストレーションを数々手がける。中南米を中心に、様々な国でワークショップを行い、自作の紙芝居を上演している。2009年に帰国。2018年より神戸に在住。『ミリーのすてきなぼうし』は小学校2年の教科書（光村図書）に掲載。デビット・マッキー『ぞうのエルマー』シリーズ翻訳。近著絵本に、『*Hat Tricks*』（日本語版『アブラカタブラカタクリコ』BL出版）、『*Smile Shop*』（日本語版『スマイルショップ』岩波書店）、『*When Creature Met Creature*』（文：John Agard、絵：Satoshi Kitamura、Sallywag）は、岩波書店より日本語版『ことばとふたり』と題して出版。第70回産経児童出版文化賞の翻訳作品賞を受賞。柴田元幸責任編集英語文芸誌『MONKEY』に漫画『The Heart of the Lunch Box』掲載。同日本語版『MONKEY』Vol.27の表紙絵担当。



柴田元幸先生 近著



きたむらさとし先生 近著



場所 神戸市西区学園東町9丁目1 神戸市外国語大学(第2学舎2階503教室)
予約 対面 (先着50人) ※学外の方は要申込。
 オンライン (定員なし)
参加費 無料
企画 神戸市外国語大学 英米学科
問合せ 神戸市外国語大学 研究所グループ Mail:kouen@office.kobe-cufs.ac.jp

対面申込は
こちら▼



※学外からの参加は
申込が必要です。

オンライン視聴は
こちら▼



※オンライン参加は
申込不要です。